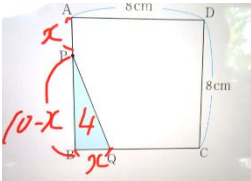
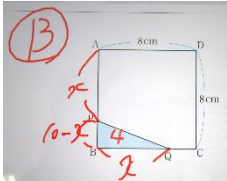


I C T実践レポート

土岐市立西陵中学校 日置 貴大

学年	第3学年
教材	「2次方程式」大日本図書 教科書P94
使用したソフトアプリ	デジタル教科書 ・ロイロノートスクール
活用の場面	観察や操作、実験などを通して、問題を見出す場面
活用したI C T機器	教師用 iPad ・生徒一人一台 iPad ・黒板用スクリーン ・プロジェクター
活用の実態	<p><場面に応じたシュミレーションソフトの活用></p> <p>単元の利用の場面において、デジタル教科書内のシュミレーションソフトを活用した。</p> <p>問題プリントを配付した後、2点P、Qがどのようにして動き、その際に△PBQはどのように面積が変化するか問いかけた。問題をうまく把握できない生徒も多く、実際にシュミレーションソフトを活用して問題内容の理解に繋がった。</p> <p>また、解の吟味を行う際にも、得た解のどちらも問題の答えとしてよい根拠に、シュミレーションソフトの図を使って説明させた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;"><全体交流の場で示した2つの図></p> <p><ロイロノートを活用したノート提出と解答配付></p> <p>自分の考えをノートにまとめ、ロイロで提出させ、仲間の解答と比較・交流させている。また、練習問題などについては、自分の進捗に合わせて答え合わせができるように、資料箱に問題の解答を送った。</p>
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは教室前の黒板で、図を操作しながら説明していたが、一人一台持っているタブレットに表示して手で操作することで、より伝えたい場面を明確にすることができた。 ・実際の説明したい場面の図に書き込みながら説明することができ、解の吟味の場面でも、解となる三角形の形を確かめながら説明する姿があった。 ・できた生徒からロイロノートで解答を確認することで、自分の解答に自信をもって仲間と関わることもできた。また、苦手な生徒にとっては仲間の途中式もヒントになり、なぜその解答になるのか考えるきっかけにもなった。
振り返り	<p>○I C Tを活用することが目的ではなく、I C Tを使ったほうが説明や理解がしやすいことを生徒が実感することができた。</p> <p>●他のアプリをあまり授業内で活用できていないので、授業の中でさらにI C Tを活用して深く理解できる場面を研究していく。</p> <p>●タブレットを活用して相手に説明することができてきた半面、図や言葉でまとめ、多くの人が見ても理解できるまとめ方ができていない生徒も多い。まとめ方や説明方法の良い例を共有しながら、形に残る学習の足跡を残していきたい。</p>